

中学生地域ボランティア大活躍！

◆今年度は、昨年まで中学生が、総合的な学習の時間におこなっていた「地域応援隊」の活動が無くなりました。そこで、町や各区、公民館、支館分館の行事の中で中学生に分担して担ってもらえるものがあればやってもらおうと、中学生地域ボランティアを立ち上げました。その様子的一端をお知らせします。

「やってみたい！」主体的に参加する姿を大事に

◆学校の授業ではなく、地域からの要請に中学生が主体的に応募して事業に参加します。7月から始まりましたが、これまでに22回の応募があり、延べ70人を超える中学生が参加してくれました。これまで募集のあったボランティア事業は次のとおりです。有難うございました。

- ・下二納涼祭 ・下市田萩の里夏祭り ・平和の折り鶴つなぎ ・吉田南納涼祭
- ・図書館お楽しみ会 ・福祉教室めだかの学校 ・下市田学校にお泊りしようよ！
- ・吉田区ふれあい広場 ・下二区笑顔を増やそうプロジェクト ・新田地区納涼祭
- ・出原区ふれあい広場 ・高森町ハイフォレスト音楽祭 ・ホテル管理委員会スタッフ

○下市田の萩の里夏祭りにスタッフとして参加した子は「柿丸くんとともに地域の子どもたちとの交流ができたのがうれしかった。写真を撮ったり『タッチしてみる？』と子どもたちに言ってみたり、地域の人たちが明るい気持ちになってもらえるように気をまわして動くことが大切だと思った。町の方が優しく教えてくださって楽しく仕事ができた。このような地区のお祭りに参加するのは初めてでしたが、小さなお祭ならではの地域の温かさや人との交流の楽しさを知ることができた。」と語っています。地域の方からも「夏祭りの間、約3時間にわたって柿丸くんの中の人を務め、会場の子どもたちを楽しませてくれました。子どもたちにも生徒たちにも良い思い出になったと思います。」と感謝とねぎらいの言葉をいただきました。



◆他の事業への参加者も「みんなに喜んでもらい嬉しかった」「役に立てた」「新しい発見があった」と語っています。

◆多くの中学生が応募してボランティア活動を行っているわけですが、地域にはまだ中学生が活躍できそうな事業があると思います。是非、募集をかけてください。募集用紙は、高森町公民館までご連絡ください。

○次号は、学校支援ボランティアの皆さんの活動などを詳しくお知らせします。

高森町コミュニティスクール通信

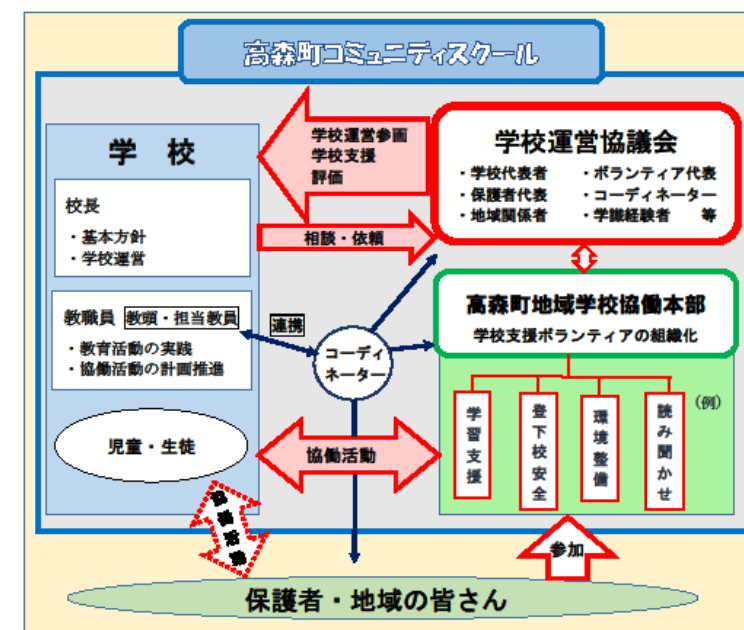
令和6年1月9日
高森町CS地域学校協働本部
高森町公民館

高森の子どもは、学校・地域・家庭町全体で育てよう！伸ばしていこう！

◆高森町コミュニティスクールの学校運営協議会では、高森の子どもを家庭はもちろん地域・学校が協働して、目指す子ども像を実現していこうと取り組んでいます。令和5年度は、各校のグランドデザインで大事にされている「**自己肯定感**」・「**自己有用感**」を高めようとして協議を重ねてきて、9月にはそれぞれの学校を訪問して子どもたちの授業を参観し、その様子をもとにしてより良い方向を探ってきました。また、12月には各校から課題や話題にしたいことを出してもらい、意見交換をしてきました。

◆会議では、まず「自己肯定感」や「自己有用感」について確認し合いました。

高森町コミュニティスクール イメージ図（令和5年度）



子どもの「自己肯定感」・「自己有用感」を高める

◆「自己肯定感」や「自己有用感」とは何でしょうか。

大変難しい言葉ですが、人が成長していく上ではとても大事な要素になります。

◆「自己肯定感」とは何でしょうか

それは、『**良い面もマイナスの面も含めて、現在の「ありのままの自分」を認めること** **今の自分が好き**』という感情で、「**自尊心**」ともいわれます。高森町で目指す子ども像は「自己肯定感が高い子ども」です。次のような子どもです

- ・主体的に物事を考え、意思決定ができる子ども
- ・自分のことが好きである子ども
- ・人と自分を比較しない子ども
- ・他人の意見を認められる子ども
- ・失敗を恐れず積極的に行動する子ども
- ・気持ちが安定している子ども
- ・突然の困難にも動じない強さを持った子ども
- ・最後までやり通そうとする子ども…



逆に、自己肯定感が低いといわれる子どもは、次のようです。

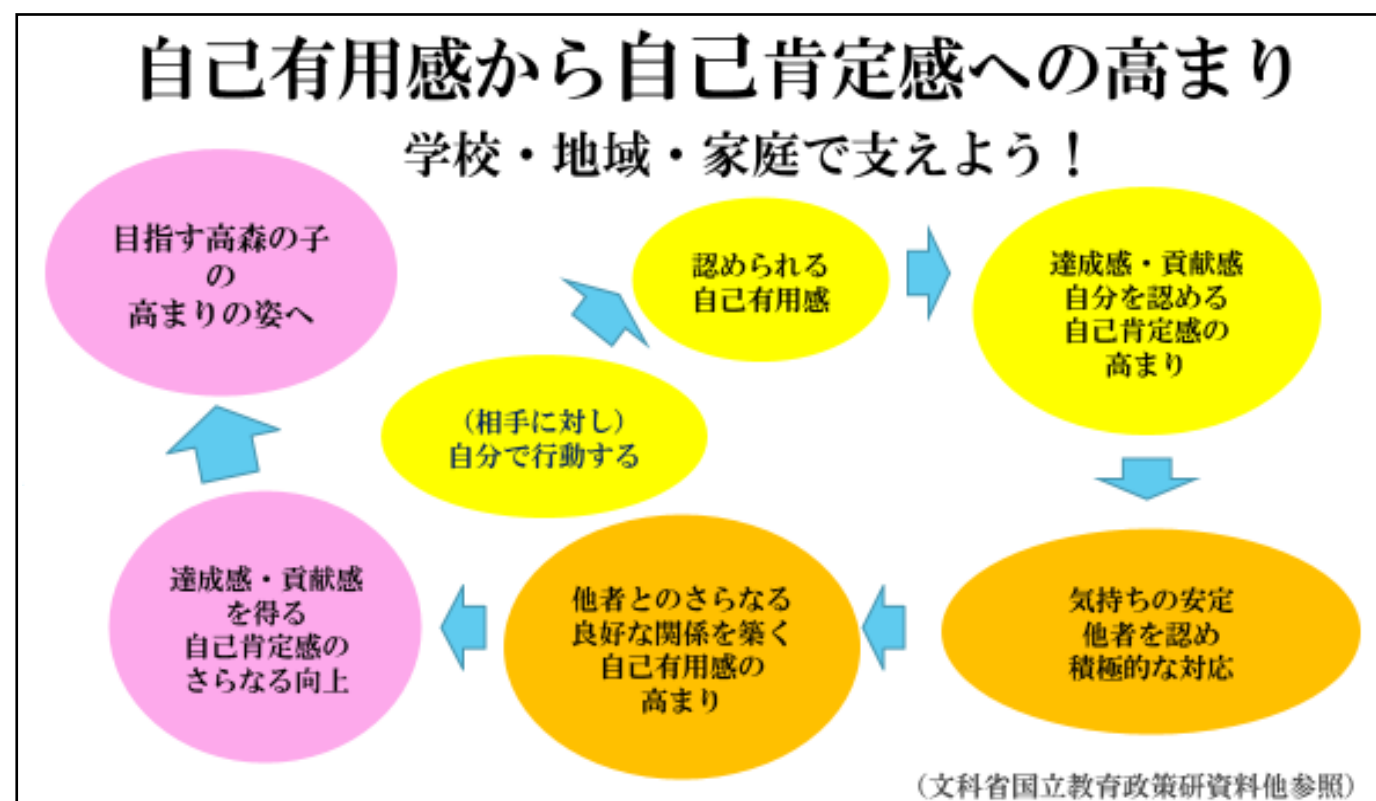
- ・何事に対しても消極的になりやすい子ども
- ・何事にも自信がないという子ども
- ・周囲への依存度が高く、頼ろうとする子ども
- ・できないと決めつける子ども
- ・必要以上に他人と比較する子ども
- ・チャレンジしようとししない子ども
- ・自分に厳しく、相手にも厳しく当たるとも
- ・人のために頑張れない子ども…

◆「自己有用感」とは何でしょうか。それは、

『**他の人の役に立った、他の人に喜んでもらえたなど、相手の存在なしには生まれてこない感情**』といわれています。この自己有用感が、子どもたちに付けていきたい「自己肯定感」を育むのに必要であるといわれています。

この感情を持つことで、子どもの社会性を高め、「人とかかわることが楽しい」、「人の役に立ちたい」などと思える人間に育っていくことにつながり、安定した自己肯定感が子どもの中に育っていくことになります。

◆そのためにも「人とかかわる力」を付けていかななくてはいけないことも確認されました。



◆会議の中では、大人の子どもへのかかわり方ひとつで違うので、家庭でも幼少期から子どもに寄り添い、子どもの目線に立って適切な声がけ、スキンシップなど心がけていくことが大事であることが出されました。幼年期の接し方を誤ると、子どもに愛着障がいが出てしまうことも話されました。

◆愛着が形成されると、子どもの中に、人への信頼関係がしっかり芽生えるようになり、心理的な安心感を得られ、さらに、コミュニケーション能力を高めることができるといえます。

◆学校では、教師の声がけが大事だという小学校の例も報告されました。地域においても、子どもたちを見守り、挨拶を交わしたり声をかけていただいたりすることで子どもたちの感情形成に大きな影響があると考えます。適切なかわり方は子どもの居場所にも影響します。

小中学校の課題を共有し、共に考えよう

◆2学期までの学校運営の中で、各校で課題としていることを挙げていただきました。

○高森南小学校からは

・自己有用感を育むために大事だと考えられる異年齢での交流や地域に出て他者と交流する活動はまだ十分とは言えない。

・学級懇談会のあり方もふくめて、保護者との情報共有の方法を工夫する必要がある。学校、担任、保護者と情報を共有して連携し、子どもの指導にあたりたい。

○高森北小学校からは

・学校生活に不安を感じている子もいる。その子の様子を全職員間で共有して、指導にあたるようにしている。

・学年が上がるにつれて人間関係作りが難しくなるので、自他のよさを見つける関係作りの活動を全校で行い、情報発信している。

○高森中学校からは

・子どもとともに喜ぶ実感できる授業づくりを目指しているが、職員の多忙化、授業準備や教科研究の時間確保、職員の自信と自己有用感の高揚が課題である。

・子どもを育てるに当たっての学校の役割、地域の役割、家庭の役割について、分担できないか。

◆「**高森の子どもは、学校・地域・家庭・町全体で育てよう！伸ばしていこう！**」を大事に考えています。学校の課題は地域全体の課題と考え、できることから少しずつ取り組みましょう。



◆学校運営協議会、2月の第4回には、一年間の学校運営を評価し、次年度の方向を確認する会を行います。

